

先の 4 月 18 日(日)に行われた新試験制度 3 回目となる平成 22 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

システム監査技術者試験 (AU)

[平成 22 年春期のシステム監査技術者試験 統計情報]

応募者	5,415 人
受験者	3,534 人
合格者	506 人
合格率	14.3%

システム監査技術者試験は、従来実施されてきたシステム監査技術者試験と同等のレベル・内容の試験ですが、従来、取り上げられてこなかった組込みシステムの事例も午後試験の対象になりました。

新試験制度で 2 回目の実施となる平成 22 年春期のシステム監査技術者試験では、昨年の平成 21 年春期のシステム監査技術者試験に比べ応募者が 100 人ほどの微増で、合格率は昨春の 13.9% より増加し 14.3% で過去最高の合格率になっています。

[午前 試験 (高度試験の共通知識問題)]

- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、前回の試験と同様にすべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれていました。過去問題の比率は 5 割弱で前回よりも減っています。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されています。今回の試験で 2 問出題された中分類は次のとおりですが、他の分類に比べて少々重要視されている分野といえます。

(2 問出題された中分類)

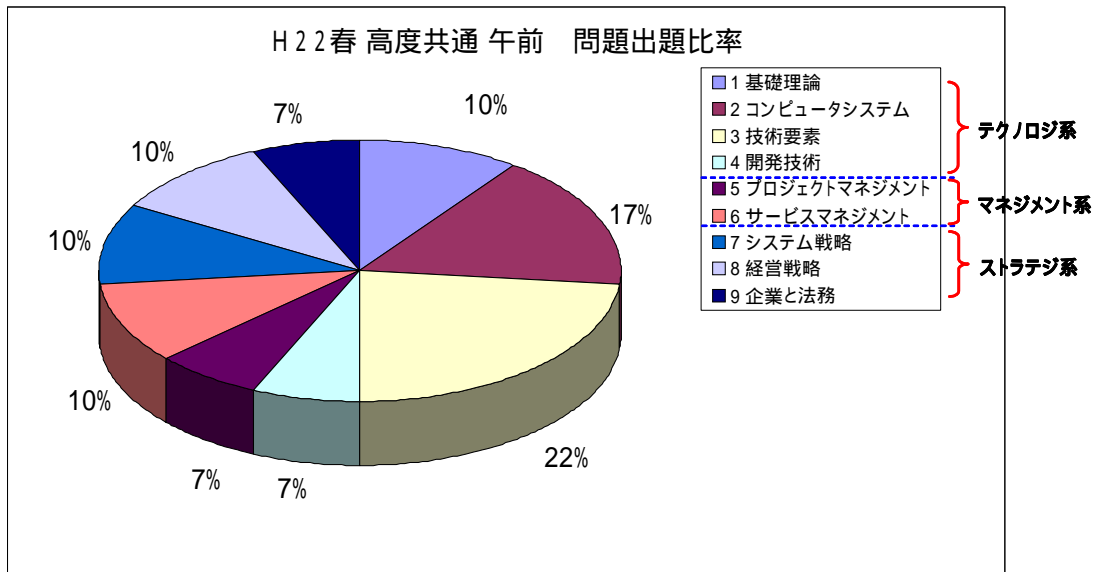
アルゴリズムとプログラミング、ソフトウェア、データベース、セキュリティ、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略

- ・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

(新傾向問題)

- 問 3 (= AP 問 8) 妥当な XML 文書
- 問 9 (= AP 問 26) ヒューリスティック評価法
- 問 14 (= AP 問 42) LAN アナライザ
- 問 18 (= AP 問 51) プロジェクトライフサイクル
- 問 20 (= AP 問 54) ITIL v3 (問題管理プロセス)
- 問 26 (= AP 問 67) チャレンジ戦略
- 問 27 (= AP 問 69) 技術の S カーブ

平成 22 年春期の高度試験共通 午前 問題出題比率



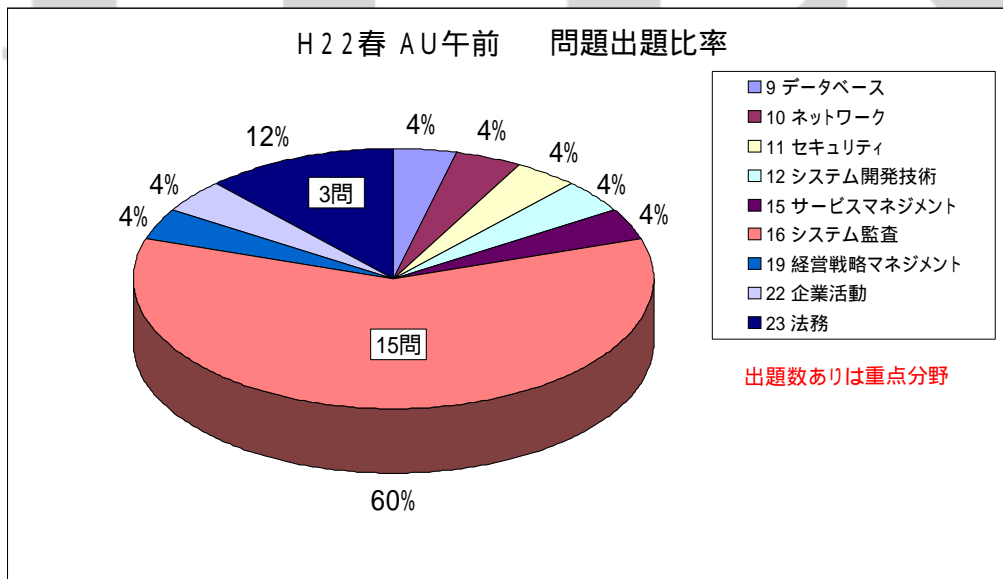
〔午前 の専門知識問題〕

午前 試験は出題範囲が決まっていますが、新制度のシステム監査では出題数は少ないですが、テクノロジー系問題も含まれることになりました。今回の午前 試験では、監査の専門分野の出題数が 15 問あり、前回の 10 問に対してかなり増加しています。このため、午前 試験の難易度は少し増加したといえ、今後もこの傾向が続くと思われるので、専門知識の学習を着実に行うようにする必要があります。

新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

- 問 11 RFP によるベンダ選定手続き監査の指摘事項
- 問 13 内部統制の要素としての統制活動
- 問 14 内部統制の固有の限界に当たる事象
- 問 19 会社法に基づく監査委員会の役割

平成 22 年春期のシステム監査技術者試験 午前 問題出題比率



〔午後問題〕

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。今回から解答数が3問から2問に減りました。今回の午後 試験の特徴として、問題で取り上げているシステム事例の説明が全体に前回よりも多いことが挙げられます。しかし、データベースやセキュリティ試験のように1問あたりの設問数など解答する量は増えていませんので、受験者負担は旧試験に比べて軽くなったといえます。なお、組込みシステムを事例とした出題は今回もありませんでした。

問1 企画段階におけるシステム化効果の監査 **やや易**

問2 倉庫システムの監査 **やや難**

問3 モバイル営業支援システムの監査 **普通**

問4 ポイントシステムの監査 **やや難**

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。問1が情報システムだけでなく組込みシステムも対象として論文テーマで、初めてのパターンでした。

新試験では各設問に字数制限付き、設問A：800字以内、設問イ：700字～1,400字：設問ウ：700字～1,400字（PM試験とは異なる）となっています。

問1 情報システム又は組込みシステムに対するシステムテストの監査

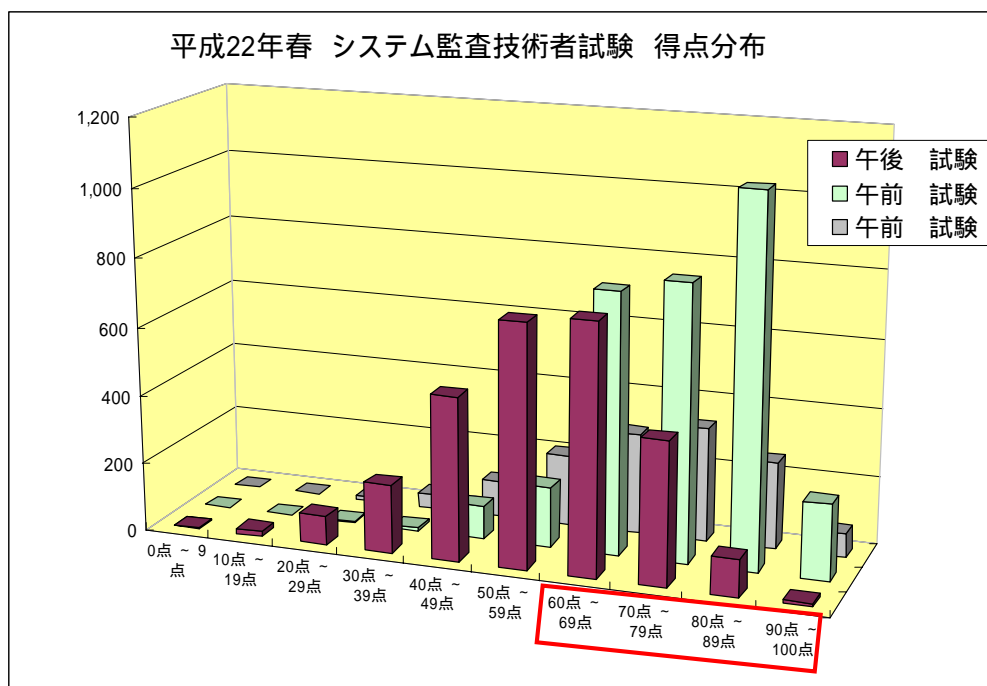
問2 電子データの活用にかかわるシステム監査

問3 IT保守・運用コスト削減計画の監査

〔平成22年春 システム監査技術者試験 スコア分布〕

得点	午前 試験	午前 試験	午後 試験	午後 試験	合格者
0点～9点	0	0	2	D	153
10点～19点	2	0	16		
20点～29点	11	3	85	C	119
30点～39点	42	8	200		
40点～49点	105	97	475	B	468
50点～59点	207	176	705		
60点～69点	294	758	725	A	506
70点～79点	332	799	416		
80点～89点	254	1,068	107		
90点～100点	69	221	10		
計	1,316	3,130	2,741	1,246	506
対前試験比率		237.8%	87.6%	45.5%	40.6%
午前 免除者(概数)	2,218	62.8%			

合格者数	506	採点者数の割合	合格者数との差
午前 60点以上合計	949	72.1%	443
午前 60点以上合計	2,846	90.9%	2,340
午後 60点以上合計	1,258	45.9%	752
午後 60点以上合計	506	40.6%	0



新試験制度で春期の試験で午前 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 試験の免除者は概算で 2,218 人 (62.8%) あり、事前に予測していたとおり受験者の 6 割以上が午前 からの受験となりました。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 949 人 (受験者の 72.1%) でした。また、午前 試験で基準点以上の人は 2,846 人 (受験者の 90.9%) と高い率になっていますが、前回の午前 は 97.2% の人が 60 点以上取れる非常に易しい試験だったので、専門知識を増やしたことによって少し難しくした傾向が伺えます。しかし、今春行われた他の高度系の午前 試験ほど平均得点は下がっていません。今後は午前 試験も今よりも少し難しくすると予想していますが、システム監査の午前 試験も専門知識をさらに増やして、難易度を上げる方向になると予想します。

午後 で基準点 (60 点) 以上取れた人は 45.9% で、前回の平成 21 年春の試験の 40.0% に比べて少しだけ上がっており、前回よりも得点しやすかったと考えられます。午後 で合格点の A 評価を取れた人は 40.6% で、昨年の 44.9% より若干ですが減少しています。

合否別の試験対策と通信教育，セミナーのご案内 (今回合格された人へ)

合格された方で今秋の情報セキュリティスペシャリスト，ネットワークスペシャリスト，システムアーキテクト，IT ストラテジスト，IT サービスマネージャ試験を目指す方は、午前 試験が免除ですので、午前 の専門分野知識について、なるべく早く試験対策を始めましょう。まずは該当分野の応用情報技術者試験の問題を解くことをお勧めします。

午後 試験が論文となるシステムアーキテクト，IT ストラテジスト，IT サービスマネージャ試験を受ける方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点の A 評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト，模擬試験に加え，論文添削も行っていますので，ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書 (基礎テキスト) は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また，出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」，各試験別の予想問題集，本試験問題は新試験の出題内容を研究し改訂しています。こ

れらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページ (<http://www.itec.jp/shop/>) でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前 試験が免除になる方のために最適な教材をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」をお勧めします。高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験 (2 回)、論文添削 (2 回; 午後 が論述試験のコース対象) の教材が含まれています。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト (分野別全 6 冊)、午前 対策用「合格への総まとめ」、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験 (2 回)、論文添削 (2 回; 午後 が論述試験のコース対象) をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集 (予想問題集、本試験問題集) と模擬試験 (2 回)、論文添削 (2 回; 午後 が論述試験のコース対象) をセットにした標準学習時間 4 か月の「**速習コース**」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

今回残念ながら不合格だった人

まず、午前 の試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。時間のない方は、「2010 合格への総まとめ 応用情報・高度 午前共通知識対策」で出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。基本事項を理解していない人や苦手な分野がある人は、アイテック刊行の新試験用のレベル 3 の教科書 (通信教育教材) でじっくり学習することをお勧めします。

今回の午前、午前 試験の得点が 50 点 ~ 59 点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。また、午後試験の得点が 60 点に満たなかった人は、まず午前 の専門知識の内容に関して、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょう。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたくえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

通信教育コースでは、午前 試験免除対象の方のために最適な教材 (高度専門知識・午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験 (2 回)、論文添削 (2 回; 午後 が論述試験のコース対象) をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」をお勧めします。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト (分野別全 6 冊)、午前 対策用「合格への総まとめ」、専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験 (2 回)、論文添削 (2 回; 午後 が論述試験のコース対象) をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集（予想問題集、本試験問題集）と模擬試験（2回）、論文添削（2回；午後 が論述試験のコース対象）をセットにした標準学習時間 4 か月の「速習コース」ほか、各コースのeラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「合格ゼミ」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

（以上）



itec